桂浜たより 第九号

（桂浜を守り育てる会ー桂浜水族館応援団ー会報）

「朝日を浴びる桂浜」　2020 年 8 月 1 日 6:00

ごあいさつ

コロナが登場してすでに半年を過ぎました。
当観光地桂浜も大きな打撃を被っています。
世の中、日本も世界もまさに変革の予兆の嵐が飛び交っています。
しかし、この桂浜は変わらぬ美しさを保ち続けている。
自然は常に強い。自然体で、コロナも乗り切り新しい時代のシステムに備えてゆきたいと思っています。

（代表　ながくに　まさひこ）

コロナ消えろ！　撃退の妖怪アマビエ

丸林さん作
アマビエ&アマビエラ

メンダコ好きの
異形文化財天然記念物 作
アマビエ

丸野さん作
アマビエ
（通称：マルビエ）

＜コロナ禍奮闘記＞

マイナスをプラスに！　～ハマスイスピリット～

桂浜水族館館長
秋澤　志名

戦後初の長期休館になったコロナ禍の 2020 年。世の中は外出自粛となりハマスイも 4 月 13 日から 5 月 10 日まで余儀なく休館し、伝統の年中無休の体制が崩れました。その間半数のスタッフは自宅待機しましたが、必要最低少人数が出勤して業務を行いました。スタッフたちは、入館者がいないとなると水族館経営としてはかなりのピンチで先行きが見えずいったいどうなるものかと不安だったのでは？・・・が、ここはハマスイ魂！なにごとに対しても「マイナスをプラスに！」「はい！Yes！よろこんで！」のスローガンです。

当館のスタッフは、この閉館期間の間も笑顔を忘れず、常に前向きに働き、いつもスイゾクやファンの方を想い、ポジティブにいてくれたことが私の最大の喜び、糧となりました。

2014 年の存続危機もさることながら、2020 年のコロナ禍と、次々と難題が降りかかってきますが、掲げ続けてきたスローガンは、確実にこの桂浜水族館に根付いていることを実感しています。今後、何が起ころうとハマスイは、「おらんくの水族館」として多くのファンの方、頼もしいスタッフや信頼あるコネクションの方々に守られて 100 周年を迎えることができることでしょう。

長期休館は、当館にとって今までに無いことなので、お客様のいない時間にいままでにないことをしよう！を実践しました。コロナ禍で実践したことや話題となったことをご紹介します。

①スタッフたちと浜辺でお客

スタッフ全員が青空の下でランチをしてみたり、おやつタイムを浜辺ですごしたりをしました。遊んでんちゃうん？と思われるでしょうが、とても有意義な時間でした。いままで気づかなかった桂浜の景色や自然を体感したことによりお客さまにも桂浜の良さを伝えることができるようになりました。もちろん部署違いのスタッフ同士のコミュニケーションもとることが出来ました。

②YouTube の本格始動

SNS でまだ運用出来てなかった YouTube を本格的に始動したいとスタッフ“まるのん”からの提案で開始しました。自粛期間中で多くの方が SNS への関心が強くなった時期でしたので、フォロワー数はみるみる間に収益を得るようになりました。

スタッフがスイゾクの魅力を発信するのはもちろん、オンラインえさやり体験を考案し、全国的にも注目され各メディアからの取材も多く、担当の“まるのん”は引っ張りだこ状態でした。また、ご来館されずともハマスイをご自宅等で楽しんでいただけハマスイファンが確実に増えましたし、YouTube の広告収入も発生し入館者ゼロでも収益となりました。

③「ただいま休館中」高知新聞に連載

4 月 23 日より、全 12 回にわたり高知新聞にて「ただいま休館中　ハマスイ日誌」を連載していただきました。好評で館に応援の電話や手紙もいただきました。掲載により高知県の方々に当館を知ってもらえるよい機会になりました。

「ちゅー」するカリフォルニアアシカのケイタ（アシカアイル―作業前日撮影）

「ちゅー」するアシカ

ただ今休館中
ハマスイ桂浜水族館日誌①

ちゅー！　鼻がムニュっとつぶれてしまうほど情熱的なキス。体長約2㍍、体重205㌔の巨体を乗り出して迫るのは、カリフォルニアアシカのケイタ（雄、7歳）。こちらが照れるほどの〝ラブラブ〟っぷりを見せつけられた。

高知市浦戸の桂浜水族館のツイッターが人気だ。かわいい動物と飼育員とのラブラブ写真が好評で、発信を待つフォロワーと呼ばれるファンは約11万人。飼育員がカワウソと手をつないだり、カピバラと並んでなまぼっこをしたりする姿に「愛を感じる」「尊い」との声が相次ぐ。

ケイタの「ちゅー」も人気写真の一つ。今回ちゅーを迫られた鮫島大紀さん（21）は、この4月からアシカなど海獣の担当に。「初めてのちゅーはケイタの迫力にびびったけど、今はちゅーされるのがうれしい。心を開いてくれているみたい」と声を弾ませる。

ちなみにケイタとのちゅーの感触は「しっとり柔らかくてぷにっとしてて、犬の鼻みたい」なのだとか。（河本真澄）

□■□

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、13日から休館中の桂浜水族館。館内での動物と〝イケメン〟飼育員の日常を紹介します。

2020年（令和2年）4月23日

④「イケメン飼育員」の登場

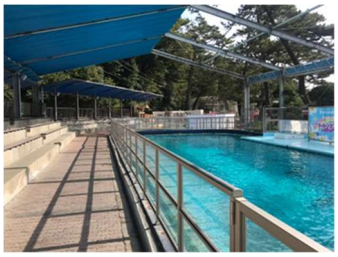
Twitter では、これまでも飼育スタッフにフォーカスしており、スイゾクとの画像が人気を集めていましたが、コロナ禍によりさらに注目され「イケメン飼育員」というワードを作り出し、各メディアからの取材をうけることとなり、トレンドワードにまでなりました。

しかし、メディアによりおもしろおかしく報道されていますが、いきものに真摯に向き合うスタッフを称賛しての「イケメン」であり、容姿端麗なだけのイケメンではないのです。当館のスタッフは、いきものをパートナーとし、日々向き合い言葉を発せないいきものの気持ちをくみ取り、いきものの魅力をお客様に伝える伝道師のような存在がイケメンなのです。そういった彼らの表情や王道をフレームに収め発信し、注目されたことが喜ばしい限りです。

⑤プール等の改修工事

長期休館中にトドプールの改修や本館建物の補修も行いました。トドプールの柵は木製で山の白アリの美味しい餌になっていたためボロボロ。いつ改修しようかと悩んでいたところにコロナ休館！お客さまもいないので、改修工事も順調に進みアッという間に工事も終了し、いきものにも影響なく新しく きれいになりました。

修繕前



修繕後

美人？館長のモノローグ

桂浜水族館館長　秋澤 志名

2018 年に 7 代目館長になり、2020 年の今年。

次から次に起こる事柄の多さに日々奮闘の 2 年間。嬉しさ喜びもあれば悲しみ苦しみもありながらも笑顔を絶やさずやって来れたのも、かわいい大好きなスタッフあってのことだし、いつも想ってくれるコネクションの方々のおかげで、感謝しかない日々。戦後初の休館では、「決断」をするタイミングと勇気を経験することが出来た。学ぶことがたくさんありすぎてアップアップになりながらもここでやっていけるのは、「桂浜水族館」「ハマスイ」が大好きだからだろう。

我が働く会社が好きでなければ、働く時間が無駄な人生になるじゃないか？　最近よく思う。

なぜ、自分はこの会社にいて働いているのだろう？自分は何をしたくて、どんなことができる人間になりたいのだろう？自問自答する。それは日々かわるものかもしれない。だが、生きる上で働くことに明確な目標をもっていないと、なんともつまらない人生になるのではないか？

ふと若き時代を思い出してみるが、いつも何かを追いかけていたように思う。自分の求めることができない環境には身を置くことはなかった。わがままだといわれるかもしれないが、わが人生なのだから自分が選択した道を進まずに不満をいうのは違うと思っていたからだ。ただ経験を積むにつれて我慢も教えてもらった。年長者から教わることもたくさんあり、世の中を教わった。

今は息子世代にも教わることが多々ある。時代とともに変わる考え方もその一つだ。学び方や働き方も時代とともに変わった。自分が追い付いてない部分もあり、考えることも多い。だが、ひとつ変わらないものがある。毎日を悔いのないように生きること。「マイナスをプラスに！」だ。嫌なことは良いことに変えてしまえばいい。だって明日私は此の世にいなくなるかもしれない。だったら今日という日を悔いのないように生きたい。明日「おはよう」が言えたら儲けもので、生かされていることに意味を持ちたいと思いながら生きていたい。間違ったこともするだろうし、だから反省もする。そして明日に向かい生きていく。明日いないかもしれないと先に言ったが、反面長生きもしたいと思う。なぜか？

当館の理事長は御年八十余歳。我が伯父だ。齢だけ聞くと高齢者で隠居生活している老人だと思ってしまう。しかしだ、彼は実にアクティブで頼もしい。飲めば若者と陽気に踊りだし、カラオケも仲間と行く。食事も実に豊富だ。驚くのは Phone でスケジュールはもちろん siri も使いこなす。ま

た数字の計算は意地でも他に渡さないぐらいの勢いで正確でしっかりしている。ボケたフリはするがホンマはボケてなんかない怖さがある。我が父もまさに自由に生きた人であったが、この二人と同じ血が流れていると思うと我が人生の未来を見てみたいと思う。もっとさかのぼると桂浜水族館を創業した曾祖父　亀齢もなかなかのはっちゃけぶりだ。昭和 12 年、対岸の種崎でも水族館を建造中で、初代館長の亀齢はそれに負けない設備を五台山の山中で秘密裏に小分け作りし、こっそり桂浜に舟で運びあげ一夜にして建て上げたといわれている。どんだけ～！の無茶ぶりだ。自分にもこの血が流れているかと思うと誇らしいと思う。このスピリットを受け継ぐ水族館が桂浜水族館なのだ。

個性豊かなスタッフが集まるのも致し方ない。いや、だからこそハマスイは続いていくだろう。ガハハハッと笑いながら今日も終わる。マイナスをプラスに！頼もしいスタッフとともに明日を見よう。龍馬のおひざもとで今日も日本の夜明けぜよと。

ハマツイの軌跡～イケメン飼育員の誕生～

企画広報　森 香央理

桂浜水族館の公式マスコットキャラクター「おとどちゃん」が飼育員にフォーカスを当て、日々、飼育員と生きものの写真とともに水族館の日常を発信しているツイッターについては、前回までに語ってきたので今回その概要は割愛させていただく。

さて、今日世界中に蔓延している新型コロナウイルス(COVID-19)の影響を受け、桂浜水族館も 2020 年 4 月 13 日から 5 月 10 日まで、およそ 1 か月間における戦後初の長期休館を余儀なくされた。休館前の Twitter フォロワー数は約 7 万人だった。それが休館中に 14 万人を超え、7 月現在 17 万人を超えている。

私が思うに、コロナ禍での人々の心の在り方がこの爆発的なフォロワー数に至ったのではないだろうか。

休館中も桂浜水族館は相も変わらず飼育員と生きものの日常を配信し続けた。飼育員の仕事は休館中であってもさほど変わらない、画面が大きく変わることはないのだ

むしろ、飼育業務に一途になれるが故に飼育員と生きものはより濃密な時間を過ごすことができた。

桂浜水族館の Twitter で飼育員にスポットを当てだしてから、そもそも水族館にそれほど興味がなかった方だけでなく、業界としても新しいその手法にさまざまなカテゴリーの方から興味を向けていただくこととなり、多くのつながりを得た。

それに伴ってネットやテレビにおけるメディアの露出度も増え、おとどちゃんが発信する「飼育員と生き物」の画からはいつしか「飼育員」が強く切り取られるようになった。

いや、それ自体はかまわない。しかし他の施設にない飼育員にフォーカスを当て「人間」に主軸を置く姿勢や SNS 映えする画によって、彼らは「イケメン飼育員」と称され、認識としてアイドルの位置づけとなった。

「“イケメン”飼育員」に対してよく思わない人の声は強い。しかし、こちら側も飼育員を推す理由は「イケメンだから」ではない。面がいいのはあくまで視線の先に「生きもの」がいるからだ。それは、必ずしも人間以外の動物には限らないが、どんな場面やシーンや瞬間であっても、フレームの内外に生命があることを忘れないでもらいたい。

人は、言葉や画面以外のものを想像するのが不得意だ。それはとても難しい。経験していなければ理解できないし、理解できないことは嫌悪の対象で受け入れがたい。桂浜水族館はいつもそうだ。誰かにとっての「理解しがたい」であり同時に「嫌悪」の対象だ。

桂浜を守り育てる会の報告

・桂浜の出来事（令和２年１月以降）

素晴らしい元旦を迎え希望に満ちた年明けだったが思いもよらないコロナ大事件で桂浜も多大の被害を被っている。
桂浜公園は一時閉鎖（駐車場閉鎖）され、恒例イベントの竜宮祭やGWの諸行事も中止された。
８月の高知のメイン行事ヨサコイ祭りも中止が決まり当分の間は観光客の来浜は期待薄の状況です。

桂浜各施設の稼働状況

桂浜公園駐車場	閉鎖（４月２９日～５月１０日）
県立坂本龍馬記念館	閉館（３月６日～３月２２日、４月１０日～５月１０日）
国民宿舎　桂浜荘	閉館（４月１日～７月３１日）
公益社団法人桂浜水族館	閉館（４月１３日～５月１０日）

桂浜公園駐車台数

月	平成31年度（令和１年）	令和２年度	対比
1	12361	13186	106.7
2	10277	12685	123.4
3	16482	12525	76.0
4	17700	2480	14.0
5	22707	1974	8.7
6	11321	4995	44.1

桂浜水族館入館者数

月	平成31年度（令和１年）	令和２年度	対比
1	6987	8891	127.3
2	4159	5225	125.6
3	7910	5785	73.1
4	8716	628	7.2
5	12303	1636	13.3
6	5358	3875	72.3

・会の寄付行為

１桂浜竜王宮の柵の補修（塗装）工事
竜宮様の柵が腐食し外観が見苦しく、また安全上の問題もあり本会で全面塗り替え補修した（６月）

１桂浜公園のベンチの製作
公園の浜辺での休憩施設が少なく、今回木製のベンチを製作した。（可搬型、２組、ひのき作り）現在高知市と贈与について交渉中。

桂浜公園の整備計画について

（高知市観光振興課からのヒヤリング）

・平成２７年から始まった桂浜公園の整備計画は基本計画の設定や整備手法の調査を経て現在、民間事業者の公募の要件の検討段階にきている。

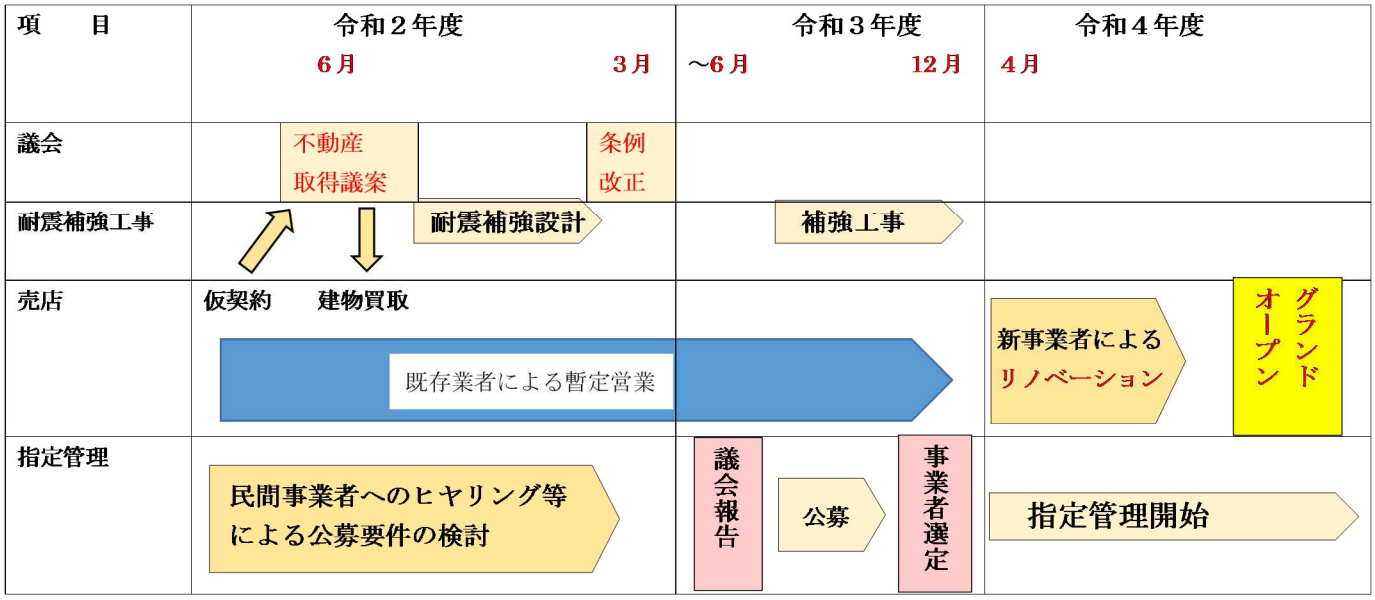
・基本計画では観光客数１００万人を目標に、公園内を６つのエリアに分けて整備し、民間活力導入をおこない公園内の管理運営を民間事業者に委ねることになっている。

・エントランスエリア（土産店、駐車場など）の整備については、当初計画された大型施設の代わりに既存の施設を活用し、段階的に投資を積み重ねるリノベーション案が採用された。

・令和２年２月、高知市よりリノベーションの実施についてつぎの発表があった。
高知市は桂浜公園内のみやげ店など建物４棟を買い上げ、耐震補強を施したのち　新たに公募した運営会社で建物をリニューアルし、令和４年度から駐車場を含めた一帯の管理運営を委ねる。

・今後の整備計画
令和３年度に公募を経て事業者選定を行い令和４年度に新事業者によるリノベーションを経てグランドオープンの計画になっている。

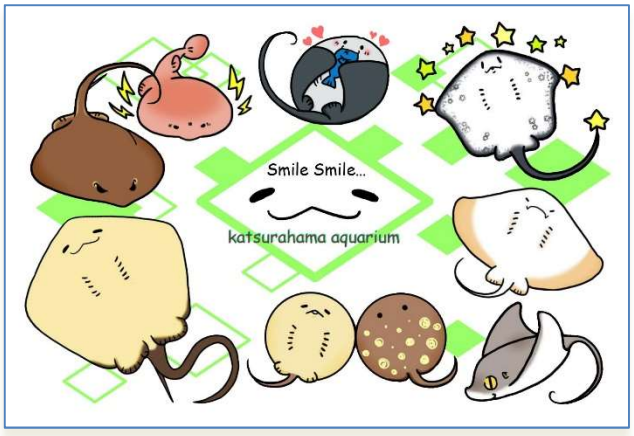
高知市観光振興課から示された計画は以下の通りです。



日奈さんのイラスト

ハマスイで日奈さんのポストカードが発売されました。
その一部を紹介します。

エイ　ポストカード



エイの笑顔と一緒に“エイ！エイ！オー！”

フグ　ポストカード

日奈さんのお気に入りは石垣フグです

お花見　ポストカード

流れたお花見！このカードで気分を味わおう！

七夕　ポストカード

流れ星はヒトデ星です。
七夕は何をお願いしましたか？

ひなさんのハマスイ新聞

58 年ぶりの桂浜にて思いを馳せる
――天下の観光名所、高齢者も集いて――

井上　紘一（土佐高 35 回生）

桂浜に立つ

2018 年 10 月、私は 58 年ぶりに故郷・高知に移住（一応、Uターンというのかな）した。そのとき今は福岡市に住んでいる漫画家の西山進さんから激励はがきを頂いた。はがきには「桂浜に立つ」――侍（龍馬？）姿の私が桂浜からそれまで住んでいた東京・伊豆大島に向かって思いを馳せている絵（漫画）が描かれていた。

私が高知を離れたのは 1960 年 3 月。以来 58 年間、東京都内に住み、人生を過ごしてきた（2013 年からの 5 年間は東京都大島町＝伊豆大島で暮らした）。漫画家西山進氏は長崎の被爆者、手塚治虫などとも親交があった方だが、仕事の関係で親しくなった。二人の間でたまに話題になった桂浜と坂本龍馬、郷里Uターンへの激励の絵の舞台に描いていただいてうれしかった。

転居作業一段落後、桂浜を訪ねた。砂浜と渚の懐かしさ、龍王岬の一本松の勇姿、水族館の健闘ぶりに感無量だった。龍馬像に並べて設置されている「展望台」に感心し生まれて初めて龍馬さんに間近でお目にかかった。桂浜には帰省した折に遊びに来たが、年月を経るごとに日程に追われた帰省で足が遠のき、今回訪ねたときにはまるで"観光客"状態になってしまっていた。

桂浜はもちろん高知市・県の最重要観光ポイントの一つである。訪れた観光客に感動と「来てよかった」との満足感を与え、リピーターを増やしさらに多くの観光客を県内外、外国から絶え間なく誘致しなければならない。観光インフラ維持と整備、新企画の開発などの努力を続けることが求められていると推察する。

私が思うのは、桂浜が、そして種崎や浦戸湾一帯が、観光客がいっぱい訪ねて来る観光名所であるだけでなく、高知県民・市民が日常的に気軽にいっぱい集ってくる公園、息抜きの場所であってほしいということだ。

絵：西山進

長期間のブランクで桂浜・浦戸湾に関わる公私の取り組みの経過などにまったく疎い私だったが、本誌創刊号から第 8 号までの先輩諸氏の卓見・提言を遅まきながら読ませていただき学んだこと、賛同することが多かった。

かけがえのない桂浜と浦戸湾の記憶

私は南国市稲生（私の子ども時代は長岡郡稲生村）に生まれ育ったが、成長のステージに合わせた桂浜、種崎、浦戸、浦戸湾の記憶があり、かけがえのない思い出となっている。

海水浴と水族館

最初の記憶は小学校入学前後の海水浴と水族館、そして展望台である。毎年夏の海水浴は桂浜か種崎と決まっていたが（稲生を貫流している下田川の川遊びがもちろん夏のメイン舞台だったけれど）、 桂浜水族館は高知城の下にあった動物園とともに当時の高知の子どもたちにとってのミラクルワールドだった。水族館に鯨がいたという微かな記憶がある。昭和 25 年 3 月 18 日から開催された南国高知産業大博覧会の第 2 会場として、プー

ルを造って鯨を生け捕りして展示したが、展覧会会期中に絶命してしまいやむなくホルマリン漬けで展示した（桂浜水族館ホームページ）とのことだから、 親か祖母に連れられて博覧会に行き、まだ生きていたのかホルマリン漬けになっていたのかいずれかの鯨を見て胸を躍らせたのだろう。

学校の遠足

小学校時代、桂浜は遠足の目的地でもあった。ガキ友と浜辺で遊び五色石を探した。プールが釣り堀に変わっていたのはその時のことだったろうか。

石灰会社の慰安会

稲生には日本一良質と言われた石灰石の鉱山があり各社の石灰工場が生産を競っていたが、そうした会社では従業員たちの家族ともどもの慰安会（盛大なおきゃく）は桂浜で催すのが恒例だったように思う（写真＝盛り上がる砂浜での石灰会社従業員のおきゃく。最奥に水族館が見える）。

桂浜でのお客の写真（終戦直後、竜宮祭の日、龍馬像の下、浜辺に旧桂浜水族館がわずかに見える）

桂浜への交通手段

稲生から桂浜にどのようにして行ったのだろう。巡航船のことはわずかに覚えているが他は記憶がない。稲生からバスに乗り、若松町あたりにあった乗船場から巡航船に乗船し浦戸へ、そして桂浜へというコースか、はりまや橋から乗り換えてバスで行ったのか。小学生の頃は浦戸湾巡航船がまだ健在だった。五台山からバスを乗り換えて種崎に行き渡し船で浦戸へ渡ったのかも知れない。

稲生には石灰の製品を高知港まで運搬するための千貫船（石灰船）を企業や個人が所有し下田川を動力により航行していた。高知市内への交通手段としてもよく利用されていたと思う。この石灰船に人間が満載になって鏡川花火大会見物やしなね様の祭礼に村人の集団で出かけた思い出がある。従業員慰安会は何艘もの石灰船で浦戸湾に出て桂浜に乗り付けたのではないだろうか。

さらに自転車。小学校高学年・中学生の頃は夏には自転車で種崎に泳ぎに行った。海水浴場で遊ぶだけではもの足りず浦戸まで泳いで往復した。潮の流れが急でどの辺りに着岸するか友人と相談しながら渡った。現在は禁止行為だろうが、当時は鷹揚なもので、楽しい思い出となっている。

地元住民・市民・県民の公園に

1941 年生まれの爺さんがはるか昔の少年時代の体験談を書き連ねても、今の桂浜・浦戸湾を守り育てるための提案にはならない。

桂浜・浦戸湾一帯が、もちろん高知県・市が誇る名所、国内外からの観光客を誘致する観光地であり続けているわけだけれど、同時に地元・近隣住民の日常的な憩いの場、慶事や晴れの日に集う場、気楽に足を運ぶ公園だったのではないかと思う。これからも一層そうであることを願うのだ。

すでに本誌で永国雅彦氏はじめみなさんが提言されている。それらを一つひとつ、あるいは総合的に実現していってほしいものだ。

高齢者の憩いの場に

一つだけ提案させていただきたい。高齢者が気楽にたびたび訪れて、楽しむ公園として現状を再吟味して制度やインフラを整備充実していってもらいたい。高知県の高齢化率は全国第 2 位の 34,8%（2019 年）だ。桂浜や周辺地域が、地元・近隣・県下のお年寄りがいっそう気軽に集える公園になってほしい。桂浜に来るたびに龍馬さんに会える。お年寄りが人生の来し方を振り返り、土佐に生きてきたこと、自らが成してきたことへの確信を深めるには、桂浜は絶好の場所だと思う。

「桂浜・浦戸湾を愛好するシルバー割引パス」のような制度をつくること。バス運賃など交通機関料金の割引、そして高知県長寿手帳による利用料等減免施設として現在、坂本龍馬記念館が無料で入館できてありがたいが、この手帳の減免対象が県立及び市町村所管の施設が中心であるため公益社団法人のハマスイは対象になっていない。ぜひ長寿手帳による減免対象施設にしてもらいたい（入場料減免部分は水族館の負担でなく高知市の高齢者福祉施策として実施。交通料金割引についても同じ）。

「名所桂浜には県外、外国から観光客がいっぱい来てくれてすごいがやき。けんど、まっことたまるか、高知の高齢者がわんさと集まってきて水族館を見たりして楽しそうに骨休めしゆうがやき。えらいことぜよ。」

桂浜を守り育てる会会計報告（平成３１年４月１日～令和２年３月末日）

単位円）

収入の部		支出の部	
会費　（160 口）	486,000	**桂浜たより**　７号	106,488
寄付	300	８号	132,880
利子	3	**事務費用**　会報送料　(7,8 号)	35,342
		資料郵送費	17,192
		会議費用	4,514
		コピー代	2,486
		文具（ラベル）	1944
		手数料　事務員手当	40000
		会費振込料	23069
		残高証明	1,266
		記事転載	1,252
		イベント協力金　竜宮祭	10,000
		観月祭	21,072
		ガーナ会支援	30,000
		その他　絵はがき	5,500
		スローフードの本	7,920
計	486,303	計	440,925
前期繰越金	883,859	**次期繰越金**	929,237
合計	1370,162		1370,162

上記の会計報告について、その正確性を調査した結果、適正であると認めます。

令和２年　６　月　７　日

桂浜を守り育てる会

監事　和田　彪、竹内　鉄郎

編集後記

新型コロナウイルス covid-19 パンデミック奮闘記

この星を支配し続ける人類を脅かす最大の敵はウイルスである

二〇二〇年は三三歳の若さでノーベル生理学・医学賞を受賞し、二〇〇八年に八二歳で世を去ったアメリカのウイルス研究の第一人者、ジョシュア・レダーバーグが残したこの言葉を世界中が噛みしめる年となった。

【参考文献】疫病　2020　著者　門田隆将

令和２年６月 27 日　第１刷発行

桂浜水族館は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い４月１３日から５月１０日まで休館。

秋澤館長はじめ全員で「マイナスをプラスに！」ハマスイスピリットでウイルス対策を行っていった。生き物を生かし続けることはもちろん、設備のメンテナンス、調教そして、SNS、You Tube の本格的活用等ウェブによる情報発信を行った。

高知新聞はハマスイ只今休館中と水族館の様子を報道。このことはハマスイ全員の自助努力によるものと思う次第です。また、友人井上紘一君には「５８年ぶりの桂浜にて思いを馳せる」良き桂浜思いで、今後の桂浜について明日に繋がるご意見等の投稿を頂きました。

皆さま方にご投稿いただき桂浜たより第九号発行となりましてありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

コロナ感染症は収まる見通しがつかない状況下でありますが、皆様健康にご留意なさり今後ともよろしくお願い申し上げます。

校正編集では㈱Reproduction 市川様にご協力頂き誠にありがたくお礼申しあげます。

（なかた まさし）

桂浜たより第九号

2020 年8月発行（年2回１月・7 月発行）

発行 桂浜を守り育てる会（桂浜水族館応援団）

〒781-0262 高知市浦戸778桂浜公園

公益社団法人 桂浜水族館内

電話 088(841)2437 FAX 088(841)2451

題字背景画 楠瀬日奈

編集・印刷 (株)Reproduction